

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年3月10日 NO.96 (196)

コー君 「あ！ミツバチですね。」

モンタ博士 「そうだ。みんなは『ミツバチ』というとなにをおもいだす？」

コー君 「みなしごハッチ！」

たちちゃん 「みつばちマーヤの大冒険」

コー君 「それから、クマのプーさんのハニーハントなどでーす。」



たちちゃん 「それから、あまくておいしい『ハチミツ』でーす。」

コー君 「レンゲソウのはちみつっておいしいよね。」

たちちゃん 「ミツバチはいろいろなお花の蜜を集めて来ますね。」

モンタ博士 「でもね、ミツバチは決まった種類だけの花に来るのを知っていたかな。」

コー君 「ぼく知らなかった。でも、どうしていろいろな花から蜜を集めないの。」

モンタ博士 「それは、蜜のありがたがる花の方が、蜜をたくさん集められるからさ。」

たちちゃん 「そうなんですか。ところで、花の蜜って、そんなにたくさんはありませんよね。ミツバチはどうやって、どのくらいの蜜を集めるのですか。」

モンタ博士 「ある研究記録によると、一つの花で0.2mgの蜜をとり、250個程の花から50mgくらいの蜜を集めるそうなんだ。」

コー君 「へえー。でもミツバチって小さいでしょ。どのくらいの体重なんですか。」

モンタ博士 「約80mgくらいなんだ。」

たちちゃん 「うわー、自分の体重の半分以上のハチミツを集めるなんて大変ですね。」

モンタ博士 「そうなんだよ。これもある研究記録からなんだけど、30分くらいで1回の蜜を集め、それを一日に10数回も行うそうなんだ。」

コー君 「大変なんですか。それに、花のある場所なども忘れないんですよ。」

モンタ博士 「これも研究記録にあるけど、ミツバチにはすぐれた学習能力や記憶力がそ

なわっているらしいのさ。同じ種類の花だけを選んで、効率よく花の蜜や花粉を集めたり、蜜のでる時刻まで記憶しているらしいんだ。」

たちちゃん 「すごい。小さなハチが大きな仕事をするんですね。」

コー君 「あの一。モンタ博士、ミツバチが花の蜜や花粉を集めたりって言ったでしょ。花粉も集めるんですか。ミツバチが集めるのは、蜜だけではないのですか。」



モンタ博士 「そうなんだ。花粉はね、ミツバチの幼虫たちにとって、とても大切な食べ物でもあるんだね。」

たちちゃん 「モンタ博士、ミツバチたちは、どうやって、花粉をあつめるのですか。」

モンタ博士 「花粉を専門に集めるミツバチは、花のおしべでできた花粉を大あごと前足でかき落とし、口からはいた蜜で少しねばりけをつけるんだ。」

コー君 「ミツバチの体が、羽毛のように枝分かかれた毛がふさふさと生えているのは、花粉がくっつきやすくするためなんですね。」

モンタ博士 「そして、集めた花粉を後ろ足につけるのさ。その後ろ足の部分を花粉バスケットといい、まとめたものを花粉だんごというんだよ。上の写真をよく見て！」

たちちゃん 「どのくらいの花粉を集めるのですか。」

モンタ博士 「花から花へと回っているうちに、だんだん大きくなってね、1回の花粉集めには30個くらいの花を回るそうなんだ。そして、両方の足の花粉バスケットに10~25mgの花粉だんごを集めるのさ。」

コー君 「片方の足に20mgとして、両方だから40mgだ。自分の体重が80mgとすると、やっぱり半分くらいの重さを持つということですね。」

たちちゃん 「小さなミツバチなのに、本当によくがんばるね。よく働くね。感心だわ。」

蜜はどこにためるのか？花粉はどうやってあつめるのか？

ミツバチは、花の蜜を蜜胃という所に蓄えます。蜜がたまると、蜜胃はおなかいっぱいにくれます。蜜胃と腸の間には肉質の弁のようなものがあり、蜜がたまると自然に閉じるようになっているそうです。なお、働きバチはおなかですいても花の蜜をえさにすることはできないそうです。

ミツバチの後ろ足の裏側には、毛が生えたブラシのようになっていて、このブラシで体のあちこちについた花粉をすきとります。すきとった花粉は、両方の足でこすりあわせ花粉バスケットにおしこめます。くぼんだ花粉バスケットの中につめこまれ、花粉バスケットはだんだんと大きくなっていきます。